

事後評価シート

調査研究課題名	都市政策の国際比較 - インドとタイを例として -
担当者	長谷部 俊治
当初目標と目標達成度	都市をグローバルに捉えるアプローチの一つとして、巨大都市問題の現状把握及び都市政策を比較する視点の発見を目指した。問題を提起する役割は全うできたが、比較のための理論を構築するためには、さらに研究を継続する必要がある。
調査研究内容の妥当性	調査対象都市の選択は、政策を比較するうえで必要十分であった。 インタビューと現場調査を組み合わせたが、日程上、後者がやや不足であった。 実態報告としては十分であるが、比較理論の構築のためには現地の研究者との議論の機会が欲しかった。
調査研究の仕組みの妥当性	在外公館の協力を得たので、効率的な調査が可能となった。 一人で調査に当たったが、政策比較という研究の性格上、報告書を一人でまとめるしくみは有益であった。ただし、研究のとりまとめに当たって、議論する工夫が必要であった。
成果と活用（予定）	報告書をまとめ、報告会を開催した。 グローバルな視点での都市政策の必要性、政策の評価に当たっての比較の有用性などを、具体的に提示できた。 比較から日本の都市政策の特徴が浮かび上がったが、今後の都市政策のあり方を考えるために活用して欲しい。
その他	都市調査の対象はヨーロッパに偏りがちであるが、アジアや中南米のデータを欠くと、客観性を欠く政策（たとえば社会経済条件を比較しないまま制度のみを模倣する）に陥る恐れが大きい。このような政策の偏りへの警鐘としても活用できるのではないか。